



学校だより

子どもの「やる気」を育てます

2月号 令和8年1月31日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原之雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houyal/>
e-mail e-houyal@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小ホーム
ページ
QRコード



新しい「自分」を知る

生活指導主任

各教科の授業、休み時間、給食や清掃活動、レインボー班活動、高学年になればクラブ活動や委員会活動など、小学校生活において、自分以外の人と関わる場面はあらゆるところにあります。

今の学年・クラスで保一小に通うのはあと34日（5、6年生は卒業式も参加するので35日）です。それは「まだ34日ある」なのか「もう34日しかない」なのか、人によって感じ方は違うと思いますが、残りの日々はいろいろな人と積極的に関わる時間にして欲しいです。

では、積極的に関わる良さとは何なのでしょう。同じクラスだけとあまり話したことがない人、クラスは違うけれど算数の授業で一緒になる人、クラブや委員会が同じ人、レインボー班が一緒の人、放課後児童館や公園で見かける人。自分以外の人と関わる場面が多い小学校生活においては、自分の周りにたくさんの方がいます。自分の周りにいるたくさんのその人は、世界にたった一人だけの「誰か」です。ちょっとだけ勇気を出して話しかけてみたら、今まで知らなかったことに気付くことができます。

例えば、自分が好きなテレビ番組や漫画のことを相手も好きだった、普段は物静かなあの人が好きなことの話になるとおしゃべりになる、何でもできると思っていたあの子にも実は苦手なことがあった、など新たな発見があるのです。また、自分が苦手だと思っていたことを相手も苦手だったとしたら、それが二人にとって新たな共通点にもなります。積極的に関わることで新しい気付きを得ることに繋がっているのです。

気付かなかったことに気付き、知らなかったことを知ると、今までよりも「世界」が広がり、いつも通る道さえも、違って見えるのではないのでしょうか。そして、世界にたった一人だけの「誰か」に優しく接することで、自分も知らなかった「自分」を知り、世界でたった一人である「自分」のことも大切にできるようになるのではないのでしょうか。

2月は「ふれあい月間」です。保一小では、全学年でいじめに関する授業を行ったり、アンケートを取ったりし、いつも以上に友達と積極的に関わったり、お互いの気持ちが温くなるような声をかけたりすることに取り組んでいきます。

今、少しでもご心配、ご不安なことがあれば、お伝えいただければと思います。「こんなことを学校に聞いてもいいのかしら…」と思うような些細なことでも、「あれ?」と感じたちょっとした違和感でも構いません。気軽に相談してください。物事に対する考え方や問題の解決方法は決して一つではなく、その時の状況や子どもによって対応の仕方は様々ですが、目指すべきものは「子どもたちの心身ともに健やかな成長」です。子どもにとってその問題ができるだけ良い方向へ向かうように、全教員が全児童の担任という気持ちで指導にあたり、ご家庭と共に寄り添い一緒に考えていきます。引き続きよろしくお願いたします。

